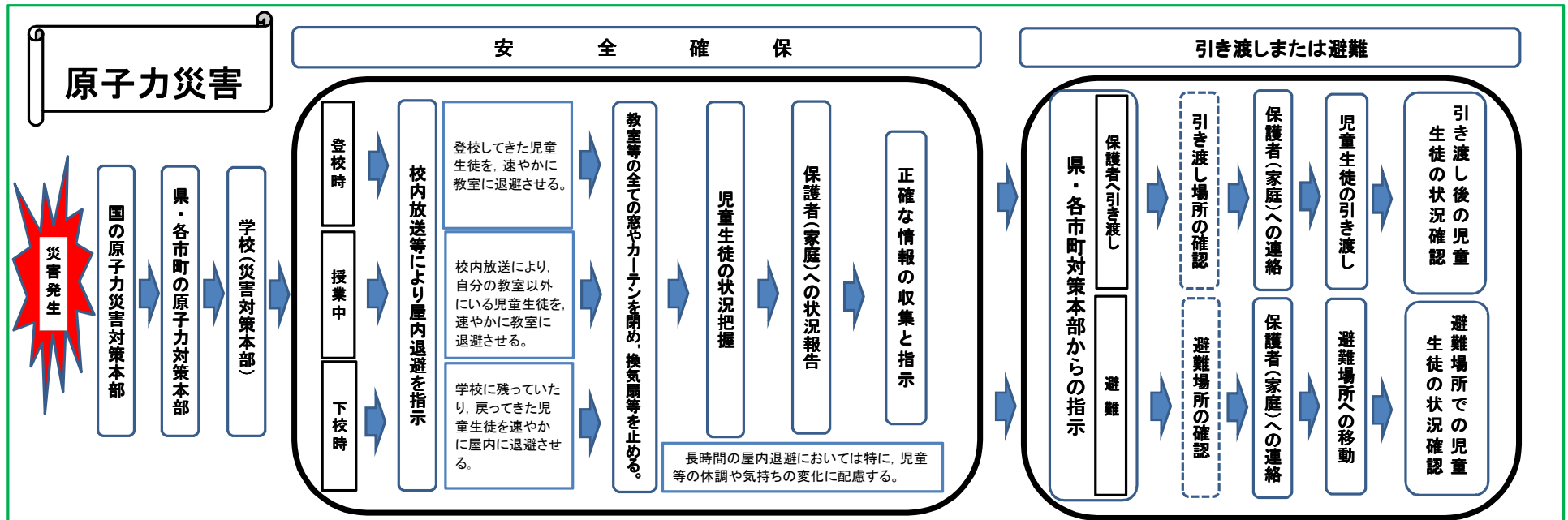


原子力災害発生時の対応(フローチャート)

・原子力災害が発生してから避難または保護者へ引き渡すまでを表しています。



児童生徒の留意点

屋内退避の場合

- ①屋外にいたら先生の指示で速やかに屋内に退避し、避難の準備をする。



放射線から身を守る方法

- ①放射性物質から離れる。
- ②放射線を受ける時間を短くする。
- ③コンクリートなどの建物に入る。(木造よりもコンクリートの方が放射線を通しません。)



放射性物質から身を守る方法

- ①空気を直接吸い込まない。(マスクやハンカチで口をふさぐ。)
- ②決められた量より多くの放射性物質が付いたりした可能性があるとして制限された食べ物や飲み物はとらない。



屋内退避後の行動

- ①教室等のすべての窓を閉める。
- ②カーテンを閉める。
- ③換気扇等を止める。
- ④屋外にいた場合は、手や顔を洗う。



学校外への避難の場合

- ①屋外にいたら先生の指示で速やかに屋内に退避し、避難の準備をする。
- ②避難のために車両に乗るときは、落ち着いた行動をとる。
- ③避難所についたら、先生や市町の係の指示に従って行動する。

学校の留意点

- ①テレビ、ラジオ、広報車、インターネット等、様々な手段で伝達される情報入手する。
- ②すぐに戸や窓を閉める。換気扇、空調設備等を止め、外気を遮断する。
- ③屋外にいた児童生徒等は、顔や手等の洗浄を行う。
- ④火気の点検をする
- ⑤教職員のいない教室の児童生徒の安全を確保する

- ①停電により校内放送で指示ができない場合の連絡体制
 ・ハンドマイクの使用
 ・各教室、各階への連絡体制の確立

退避・避難する時の注意点

正しい情報に基づき行動する
 一斉放送、広報車、ラジオ、防災無線など

退避
 ドアや窓を閉める
 エアコンや換気扇の使用を控える
 外から帰って来た手や顔を洗う
 木造家屋より放射線が通り抜けにくいコンクリートの建物への退避指示が行われることもある

避難
 ●ガスや電気を消す
 ●戸締まりをしっかりする
 ●避難場所へは徒歩で
 ●持ち物は少なく
 ●隣近所にも知らせる